

## 第 10 回福島問題予備研究会議事録

松井

日時 11月18日(水) 15:00-17:30

場所 化学工学会 応接室

出席者 横堀、小林、郷、中尾、橋本、松井 (順不同)

(戸井田、鈴木 欠席)

## 議事内容

## (1) 関連する学協会の活動(横堀)

・ 原子力発電環境整備機構(NUMO)主催「地層処分講演会:フランスにおける地層処分産業センターの立地経験」(ピエールマリーアパディ:ANDRA/CEO)講演に出席した。フランスの高レベル廃棄物処理計画の現状。放射廃棄物 60,000m<sup>3</sup> 100年分を地中 500m の粘度層に埋設。日本がまだ候補地も決められない状態に対して私の進め方は参考になる。

- ・ 技術士会で元原子力学会会長藤田玲子氏が「原子力技術の信頼性を回復するには？」技術士会にて講演予定。

## (2) 本研究会の活動まとめ 自由討議

小林顧問より学会の委員会での活動状況へのレビューがあった。

学会の行う提言は、学会外に向けて学会のスタンスを示すものであると同時に、当学会内に向けては関心を持つ会員に参与していただきと示すもの。提言をまとめるに際して政治的判断の要するものは避ける。学会の提言をもって次回原子力学会にのぞむことになっており、来年も当委員会は常置委員会として継続させる。

(3) 秋の原子力学会大会において福島第一発電所の中・長期戦略の講演名を縦軸に化学工学の要素技術を横軸にしたマップを作成すると化学工学の関与すべき可能性が非常に多い。日本の化学工学会では原子力関係を取り上げていないがアメリカの AIChE は Nuclear division として独立した部門として取り上げている。参考にアメリカの学会の活動状況を調査することになった。大江修造氏の「スリーマイル島原発事故の化学工学による検証」、「東京電力福島第一原発事故の化学工学による検証」の文献を後日横堀氏より入手。研究会の今後の方向性としてオフサイト焼却炉、汚染水、廃棄物の処分、吸着材の開発は一応一段落している。

## (4) 次回研究会開催は 12月17日(木)15-17:30 学会応接室にて